

第26回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 議事要旨

平成22年11月27日(土)、「第26回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会」が開催されました。今回は、実施計画にそってこれまで行われてきた試験施工や調査の結果の報告とともに、今後の維持管理について協議しました。

【議事結果】

- 旧流路の保全の整備内容については、これまでの議論で決められてきたとおり、流水環境にはしないで、上池の掘削や上池呑口の切り下げ(呑口の新設)等を慎重に状況を確認しながら進めていくこととする。
- 今後の維持管理については、管理目標も含めて議論を行う、管理目標ワーキングを立ち上げて議論を進めていくことで承認された。
- 広報に関するワーキングの立ち上げについては、今後運営委員会にて議論を進めていくことで承認された。

【主な議事内容】

●実施計画の施策(案)について

当面の実施計画の施策のうち、上池の旧流路の保全に係る整備の方法について、これまでの議論で決まった方法以外の方法の提案があったため、協議を行いました。

(主な意見)

- 上池の試験掘削池が涸れてしまうのは、地下水を溜めておくことができるシルト層を掘削により撤去してしまったため、砂層に染みこんでいってしまったからではないか。このまま掘削を続ければ余計に乾燥化を招くのではないか。
- 上池の撤去工事では、地層を確認し堆積している土砂のみを撤去したものであり、上池の水が涸れてしまうのは、①長期間雨が降らないと地下水位が低くなっており地下水位の変動は雨と連動していると考えられること、②施工前後の地下水位を確認してみても際だった変化は見られず施工による影響を受けていないと思われること、③付近の地質調査(ボーリング)の結果(旧流路跡のため一様ではないが)を見ても付近のボーリング結果ではシルト層は試験池より深い位置にありシルト層を撤去してしまったとは考えられないこと、より、上池を掘削することは乾燥化に繋がっていくとは考えられない。
- ミツ又沼においても池を掘削した際には、水がたまるようになるまでに何年かかかっているため、太郎右衛門地区においても、もう少し様子を見ても良いと思われる。また、水がたんだり乾いたりする場は魚には良くないが、植物にとってはそのような攪乱を好む種もあり、中池や下池と違って色々な自然があつて良いと思われる。
- これまでの議論で上池の旧流路の保全のための整備方法(流水環境にはせずに、呑口の切り下げ(既設呑口の上流側に既設より低い位置に新設呑口を整備)と上池の掘削を行うこと)が決まってきており、地下水位などの状況を見ながら慎重にこのまま進めていくこととする。

●管理目標ワーキングについて

今後の協議会の進め方について、今後は計画の具体化に向けて、管理目標を定めて、維持管理の仕組みや維持管理作業の方法について協議するワーキングの立ち上げについて事務局から提案がなされ、協議を行い、「管理目標ワーキング」を立ち上げることで承認されました。

(主な意見)

○維持管理の前にアライグマの駆除についての問題がある。エコロジカルネットワークの核となる地区なので、早急に対処して欲しい。

→ そのようなことも含めて、新たに立ち上げるワーキングで議論したい。

○今までの維持管理のワーキングはどうなるのか。

→ 以前のワーキングは、実施計画書作成にあたって、どのように記載をするのかを議論する目的のものであったが、今回は実際に維持管理作業をされている方々のノウハウや経験を活かして、今後の維持管理の内容や方法について議論を行うものとして考えている。

○維持管理といっても、広い意味と狭い意味があり、整理する必要がある。

→ 管理目標も含めた議論を行うものとし、「管理目標ワーキング」という呼称とする。

○実施計画にしたがって行うものであるので、維持管理作業についても実施計画の項目立てにそって整理するべきである。

●広報についてのワーキングについて

太郎右衛門地区の自然再生事業についての認知度もまだまだ低く、今後維持管理作業が始まってくるにあたり、より多くの人に作業に参加してもらえるようPRを行っていく必要があり、広報についても早急にワーキングの立ち上げが必要であり、今後運営委員会にて議論していくことで承認された。

(主な意見)

○広報については、早々に広報戦略を立てていくべきであり、情報の発信はすぐに始めるべきである。

→ 広報のワーキングを立ち上げた方が良く考えられ、今後運営委員会で議論していきたい。

○今の太郎右衛門地区の現状を見てもらうのもPRになるし、決めたものをどんどんやっていくべきである。

以上